

## 岩手県における水稻高密度播種苗の移植栽培法

### 【1 高密度播種苗の移植栽培法】

(1) 高密度播種苗（以下、高密度苗という。）は、密苗や密播と呼ばれる場合があり、高密度苗の移植栽培法とは播種量を多くし移植時のかき取り幅を少なくすることで必要箱数を減らす技術です。育苗及び移植方法は、表1のとおりです。

表1 高密度苗の育苗及び移植方法

品種	播種量 (g/箱)	育苗日数 (日)	栽植密度 (株/坪)	植付本数 (本/株)
ひとめぼれ	250~275	21	60~70	4
銀河のしずく				
たわわっこ	250~300	21	70	4

注1) 播種量は乾粒換算

注2) 育苗日数は播種後日数

注3) 育苗管理は慣行に準じます

(2) 高密度苗の移植栽培での収量は慣行栽培と同等で、使用箱数は40~70%に低減できます。

表2 高密度苗の使用箱数

品種	ひとめぼれ、銀河のしずく		たわわっこ	
	高密度苗	慣行稚苗	高密度苗	慣行中苗
使用箱数 (箱/10a)	7~11	約17	13~18	約30

注) 高密度苗は対応の田植機、慣行稚苗及び慣行中苗は慣行田植機で移植した時の使用箱数

(3) 雑草防除は慣行の移植栽培に準じます。

(4) 葉いもち及び初期害虫の防除には、移植時の薬剤側条処理が有効です。

### 【2 生産コストと作業時間】

「ひとめぼれ」高密度苗（播種量250g/箱、栽植密度60株/坪）の場合、慣行稚苗に比べて、育苗から移植に係る生産コストは約20%、作業時間は約40%削減できます。

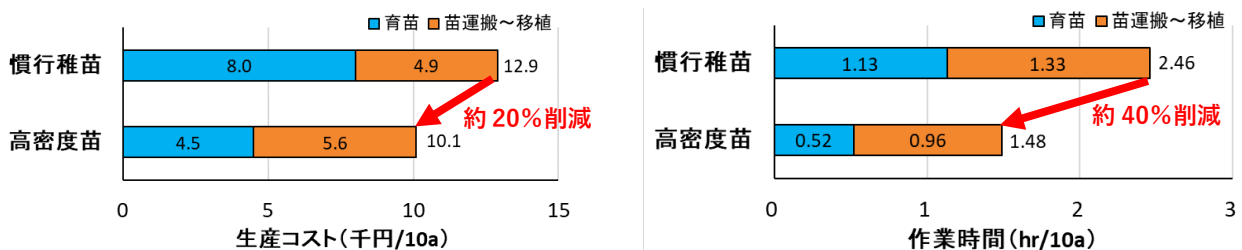


図1 「ひとめぼれ」高密度苗の生産コスト（左）及び作業時間（右）の試算

### 【3 留意事項】

- 田植機は高密度苗の対応機を用いると、移植精度が良く、箱数低減効果が期待できます。
- 高密度苗は慣行苗に比べ苗質が劣りやすく、移植時に低温、強風、田面が固い等の条件で、欠株が多くなる場合があるので注意が必要です。
- 移植時に老化苗となることが想定される場合、育苗期追肥や本田での側条施肥を行うことで、初期生育や収量の確保が期待できます。
- その他の本田管理（肥料、水管理等）は慣行栽培に準じて行ってください。